



取組概要

夏でも負けない花作りプロジェクト

社会情勢 / 社会課題

日本が生産する花きは、オランダの国際園芸博覧会の品種コンテストで最高得点を獲得する等世界的に高い評価を得ており、近年、輸出額は増加傾向にある。一方、国内では安価な輸入切り花が増加し、国産シェアの奪還と輸出の拡大が喫緊の課題となっている。このため、国産花きの生産・供給体制の強化、輸出や需要拡大のための取り組み推進が必要である

長期ビジョン

東京オリンピック・パラリンピック2020をきっかけに、花き生産農家や花き関係業界が力を結集して、日本の高品質な花きを世界へアピールするとともに生産・輸出の拡大を加速させていく

東京大会での役割

選手のストレス軽減、疲労回復効果を期待して、会場や選手村等を花で装飾するとともに、世界最高水準とされる日本の花で街や会場を彩り、日本らしさが演出された印象的な大会を実現する

3つの手段

1 ソーシャルインパクト

夏場でも日持ちする国産花きの品質の高さを世界へ発信する

2 大会ホスピタリティ

花や緑の視覚的な華やかさに加え、癒やし効果等の心理的側面にも配慮した居心地の良いおもてなしを提供

3 シェアードバリュー

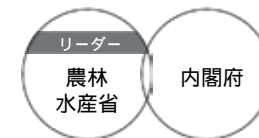
新たに開発した技術を国内他地域へ展開することにより、国内花き産業の振興を図る

2020年に向けたコンセプト

Flower Innovation 2020

ジャパンフラワープロジェクト

最先端技術を活用し、夏でも多くの国産の花で街に彩りを





ありたい姿と 成果イメージ

夏場における花きの安定生産供給技術や、日持ち性延長技術等の
日本の世界最高水準の技術による花や緑で街や会場を彩る

概要

〇 日本の優れた花や緑をいっそう多くの人に楽しんで頂くための長期品質保持や安定生産技術

日持ちする品種
を開発



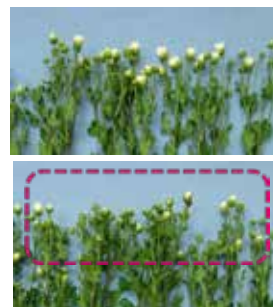
(成果例) 良日持ち性の「ダリア」の
系統育成

暑い夏場でも花きを安定して
生産する技術の開発

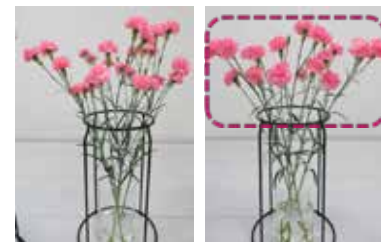


(左) 温室内での温度管理技術実証
(右) 夏場の花壇維持技術の開発

切り花を長持ちさせる品質保持剤等の開発



(成果例) 管理技術により輸
送中の開花を抑制(キク)



(成果例) 2週間留め置いても品
質が保持できる管理法の開発
(カーネーション)

大会期間中の演出例

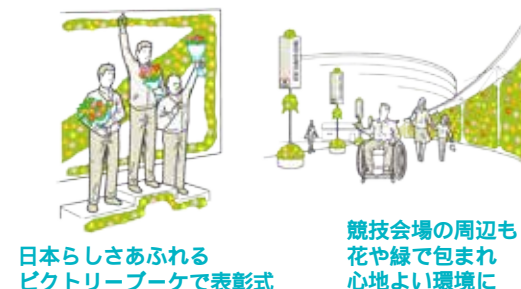
Scene ① 国際空港



Scene ② 街の中



Scene ③ 競技会場





2020年に向けた取組

夏場における花きの安定生産供給技術により、夏場の街や会場を花と緑で彩りを与え、癒やし効果等による居心地の良い、おもてなしの空間を提供することで、日本らしさが演出された大会の運営を実現する

夏の高温期も景観性の高い緑化を実現する技術開発



各種オリパラ準備イベントへの貢献

TOKYO夏花・夏花壇を作ろうプロジェクト
(「花き産地間連携生産協議会」が実施)

池袋サンシャインシティ
東京ドームシティ
六本木ヒルズ

花と緑のおもてなしプロジェクト
(臨海副都心「花と緑」の
イベント実行委員会
事務局：東京港埠頭株式会社)

お台場 シンボルプロムナード公園



利用予定地

【現時点で夏花利用が予定されているもの】
オリンピックマラソンコースの沿道
パブリックビューイング会場（都立公園）



平成30年12月第3版発行



成果をまとめた「夏花による緑化マニュアル」



2020年に向けた取組

夏場における花きの安定生産供給技術により、夏場の街や会場を花と緑で彩りを与え、癒やし効果等による居心地の良い、おもてなしの空間を提供することで、日本らしさが演出された大会の運営を実現する

切り花需要に応えるための管理技術の開発

キク、リンドウ、カーネーション等品目毎の最適管理温度・保管期間を解明



キク



リンドウ



カーネーション

夏季でも生産性が高く日持ちが良いダリアを選定

夏場でも開花性に問題がなく、暑い中でも日持ちが良い品種を選定



PRポイント

- ・これまで生産や利用が少なかった夏の高温期（6～9月）に緑化を実現するための技術開発。「夏花による緑化マニュアル」として花き関係者に配布するとともに東京都ウェブサイトにて公開。
- ・生産者管理の最適化により需要時に供給を可能とする管理技術。次年度マニュアルとして公表予定。
- ・夏季でも利用可能と考えられるダリア品種を選定。次年度リーフレットを配布予定。

2020年における実用化の姿

- ・本技術が生産現場に広く普及し生産に活用され、競技会場周辺や公共施設において夏花による緑化施工場面で多くの方々に活用されている。
- ・オリパラ時に海外メディアによる報道に本技術を基にした「花と緑によるおもてなし」映像が映ることで、世界に日本の夏花に対する技術力の高さをアピールできる。

実用化に向けた課題と道筋

- ・関係団体で協議会を設置し、競技会場周辺の施設管理者等の関係者と協議・連携を進め、取組のより一層の加速化を図る

連携機関

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門を代表機関とするコンソーシアム

問い合わせ先

(全般)農林水産技術会議事務局研究企画課 TEL 03-3501-4609
(研究関係)農林水産技術会議事務局研究統括官(生産技術)室
TEL 03-3502-2549

(普及関係)生産局園芸作物課花き産業・施設園芸振興室

TEL 03-6738-6162



工程表

